

# 軽井沢絵本の森美術館 2024年 秋冬展

## 「秋と冬の絵本めぐり」

会期：開催中～2025年1月13日（月）

プレスリリース

### 紅葉が彩る秋、雪が白く染める冬 絵本が描く季節を楽しむ

絵本には、季節をテーマにした作品が数多くあります。そうした絵本の中から、本展では「秋」と「冬」の絵本に注目します。

秋の絵本に描かれる主な風景は、「紅葉」と「実り」です。例えば、バーナデット・ワッツ『リサのちいさなともだち』は、文中に秋と明示されずとも、描かれた赤や黄色に色づく木々、きのこや木の実といった自然の作物を通して、秋の美しさを伝えてくれます。

また、秋は「中秋の名月」の呼び名のある通り、月がより美しく見える季節といわれます。これにちなみ、リトアニア出身で、ポーランドを代表する絵本作家スタシス・エイドリゲビチユスの『クレセント・ムーン』をはじめ、月をテーマにした絵本原画を展示します。

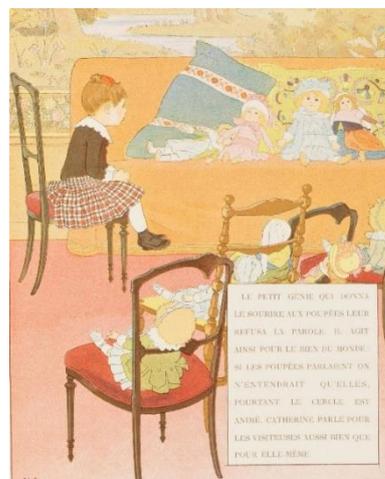
冬を描いた絵本は数多く、その中でも代表的なテーマとなるのが「クリスマス」です。本展では、クリスマス絵本を多数手がけた画家の一人トミー・デ・パオラの『クリスマス・キャロル』をはじめ、多数のクリスマス絵本の原画をご紹介します。

冬の主要な題材にはもう一つ、「雪」があります。ゲルダ・マリー・シャイドル作『ゆきだるまのさがしもの』（ヨゼフ・ヴィルコン 画）では、主人公の、体が雪であるゆえの悩みや喜び、生命が表現されています。

加えて「雪解け」もまた、冬ならではの情景ではないでしょうか。M・ブーテ・ド・モンヴェルがイラストを手がけたアナートル・フランスの短編集『わが子どもたち』収録、「カトリーヌの日」の中では、少女カトリーヌが人形を通して、雪が降る春先の情景を伝える場面が描かれています。冬の長い軽井沢で、絵本とともに春へ想いを馳せていただけたら幸いです。



▲ウィリアム・ヒース・ロビンソン画  
「おやゆびひめ」（1913年）  
物語の秋の場面が描かれ、  
その象徴としてブドウが見える



▲M・ブーテ・ド・モンヴェル画『わが子どもたち Nos Enfants』より「カトリーヌの日」（1887年）

#### 【企画展概要】

タイトル	2024年秋冬展「秋と冬の絵本めぐり」
会期	2024年10月18日（金）～2025年1月13日（月）
場所	ムーゼの森 軽井沢絵本の森美術館 第2展示館
開館情報	◆開館時間 【10月】9：30～17：00 【11月～1月】10：00～16：00（最終入館は閉館の30分前） ◆休館日 【10月～11月】火曜日 【12月】火～金曜日 ※12/24（火）～12/25（水）、12/28（土）～12/31（火）は開館 1/1（水）、1/7（火）～1/10（金） ※1/14（火）～3/7（金）は冬期休館 ◆入館料 大人1000円、中・高生700円、小学生500円、小学生未満無料 【エルツおもちゃ博物館とのセット券】大人1,500円、中・高生1,000円、小学生700円、小学生未満無料

# 軽井沢絵本の森美術館 2024年 秋冬展

## 「秋と冬の絵本めぐり」

会期：開催中～2025年1月13日（月）

### 展示の見どころ

#### 秋の絵本—「月」

月は季節を問わず、私たちにさまざまな姿を見せてくれますが、日本では「中秋の名月」という言葉があり、秋の月は特に風情あるものと考えられています。「中秋の名月」とは、旧暦8月15日にあたる日（現在は9月半ば～10月頃のどこか1日）を指し、この時期、日本では月を眺めながらお団子を食べる習慣があります。

本展では、そうした文化にちなみ、秋の絵本として「月」を取り上げます。リトアニア出身・ポーランドを代表する絵本画家スタシス・エイドリゲビチュス作『クレセント・ムーン』より「収穫は種まき次第」をはじめ、詩的な月の絵本原画をお見せします。そして世界中の画家の創作意欲をかき立ててきたきた「月」を、絵本に描かれる秋の情景とともに眺めてみてください。



▲「月の絵本」を紹介するケース。  
アメリカやチェコなどの欧米でも  
月を親しむ文化や風情感じられる

#### 冬の絵本—「サンタクロース」

冬の絵本の主要な題材が「クリスマス」です。「クリスマス」といえば、まず浮かぶのが「サンタクロース」ではないでしょうか。アメリカでは「クリスマスの前の晩に」という詩物語がクリスマスの風物詩となっており、これを題材にした絵本が多数生まれています。ある家族のもとに、サンタクロースがこっそりとプレゼントを持ってやってくる様子を書くこの詩は、文章を読むだけでもクリスマスへの期待が高まりますが、さまざまな絵本を読み比べることで、クリスマス前夜の光景を通して画家の個性を感じることがができます。

また本展では、サンタクロースを題材にし続けた画家・小出真己（1948-2011）の特集展示を行います。小出真己はサンタクロースにまつわる創作をライフワークとしており、『サンタに恋して』（世界文化社、2007年）、『サンタ・サンタ・サンタ』（小学館、1998年）、『いつもサンタが』（リトル・モア、2003年）といった、サンタ絵本を残しました。小出真己の特徴である、深い青に包まれた夜の情景にいるサンタクロースや、秋の暖かみの中にたたくおサンタクロースの姿をお楽しみください。

このほかにも、ドイツには特有のクリスマス文化があり、サンタクロースと等しい役割をもつ「クリストキント」や、なまはげのような存在の「クネルト・ループレヒト」がいます。こうした用語を、絵本原画とともに解説しています。



ジェシー・ウィルコックス・スミス画  
「クリスマスの前の晩」（1912年）



サンタクロースを描いた画家・小出真己の特集展示。  
展示室に入った瞬間、サンタクロースを主役とした  
美しい色彩空間が広がる

### 【お問い合わせ先】

ムーゼの森 軽井沢絵本の森美術館 【TEL】0267-48-3340【E-mail】info@museen.org  
〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町長倉 182（ムーゼの森） FAX：0267-48-2006  
企画展特集サイト <http://museen.org/event/>